



絵師も動物も、人気モノ勢揃い。



動物たちの浮世絵展



鈴木春信《風流五色墨蓮之あさかほや不断見てゐる顔も扱》 明和5（1768）年頃 中右コレクション

《会期》
2024年 9月14日 [土] — 11月24日 [日]

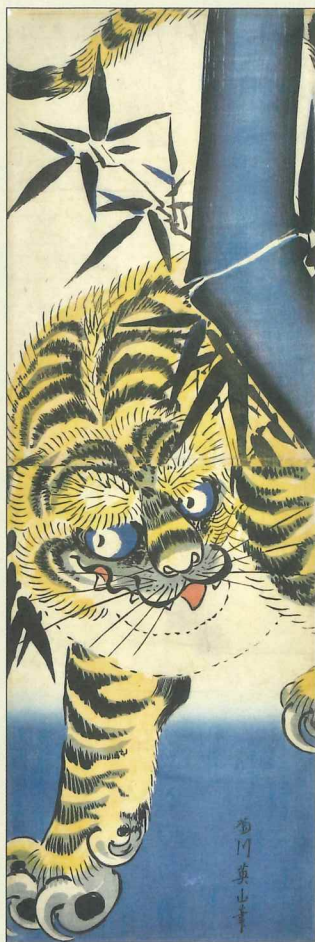
《開館時間》 8時30分～17時（入館は16時30分まで） 《休館日》 月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日休館）

《入館料》 一般700（650）円／高校・学生400（350）円／小学・中学生300（250）円 ＊（ ）内は20名以上の団体料金

《主催/会場》 萬鉄五郎記念美術館 《監修》 中右 瑛（国際浮世絵学会常任理事） 《企画協力》 E.M.I ネットワーク

萬鉄五郎記念美術館 〒028-0114 岩手県花巻市東和町土沢5区135番地 TEL.0198-42-4402 / FAX.0198-42-4405





[4]



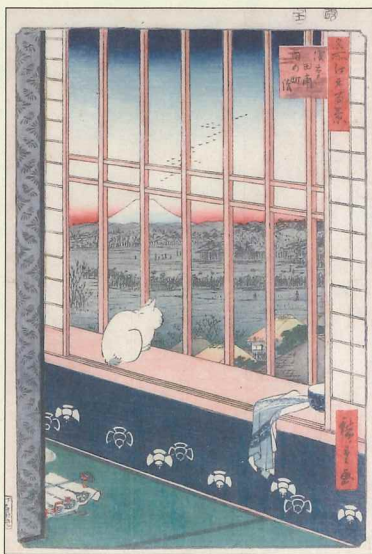
[3]



[2]



[8]



[7]



[6]



[5]

動物たちの 浮世絵展

[1]



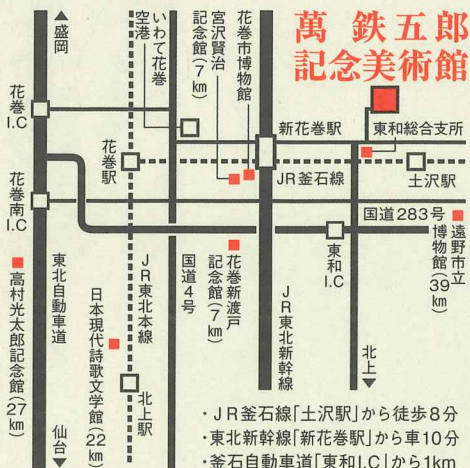
江戸時代に親しまれた浮世絵には、人とかかわりをもつ動物たちが多く登場します。ペットとして愛された猫、犬、金魚をはじめ、人とともに働く馬や牛、猿、そして舶来の象、孔雀、オウムから空想の珍獣まで、彼らはさまざまな姿で描かれます。絵師も可愛い、滑稽、怪しい動物たちをそのまま写すだけではなく、社会を風刺したり、事件を痛快に伝えたりと、イメージネーションを駆使している様子が見て取れます。江戸中期から明治初期までの浮世絵を通して当時の世相を知るとともに、春信から歌麿、北斎、広重、国芳ら人気絵師によって描かれた動物たちの姿をお楽しみください。

- [1] 歌川国安《風流娘手遊》文化8-11年
- [2] 作者不明《おそろしのけだもの》明治元年
- [3] 作者不明《江戸鯉と信州鯉》安政2年
- [4] 菊川英山《竹に虎図》文化中期
- [5] 河鍋晩斎《月夜の狸》(肉筆浮世絵) 明治4-22年
- [6] 月岡芳年《月百姿 吼猫》明治19年
- [7] 歌川広重《名所江戸百景 浅草田南西の町詣》安政4年
- [8] 蓮地堂《玉兔黄金の酉年》明治5年
- [9] 月岡芳年《風俗三十二相 相うるささう 寛政年間処女之風俗》明治21年

*表面、切り抜き作品は二代歌川豊国《新板子遊戯動物尽》(部分) 文政後期
*作品はいずれも中右コレクション

萬鉄五郎記念美術館

〒028-0114 岩手県花巻市東和町土沢5区135番地
TEL.0198-42-4402 / FAX.0198-42-4405



・JR釜石線「土沢駅」から徒歩8分
・東北新幹線「新花巻駅」から車10分
・釜石自動車道「東和I.C」から1km



[9]